

平成24年度 一般会計事業報告書

(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)

平成24年度の本県の畜産を巡る情勢は、草地の除染、代替粗飼料の確保、廃用牛の滞留解消、損害賠償請求等福島原子力発電所事故による影響の克服に迫られた。

加えて、アメリカでの干ばつをうけてのとうもろこしのシカゴ相場の急騰による配合飼料価格の高騰や猛暑に見舞われ、更に、3月にTPP交渉への参加表明がなされるなど気の抜けない厳しい経営環境が続いた。

厳しい環境の中にあって、5年に一度の和牛の祭典である「第10回全国和牛能力共進会」が10月に長崎県で開催され、本県の出品牛は、第1区「若雄の部」で「絹美継」号が全国2位となる優等賞2席、出品団体表彰で、九州勢を除きトップとなる5席を獲得するなど、素晴らしい成績を挙げ、生産者・関係者を元気づけるとともに、和牛主産地としての名声を高めた。

こういう中、本会は、本県畜産の主産地形成と維持発展の一翼を担っていくため、岩手県が定めるいわて県民計画、酪農及び肉用牛生産近代化計画、家畜及び鶏の改良増殖計画及び農協等生産者団体が進める諸対策について、関係機関・団体と密接な連携のもとで当協会の総力を結集し、畜産経営や飼養管理技術向上の指導・支援、家畜改良及び自衛防疫の推進、安全かつ良質な畜産物の生産のための検査・指導等を積極的に推進し、本県の畜産振興に寄与した。

特に、原子力発電所事故への対応では、肉用牛肥育経営安定特別対策事業による補填金の毎月交付や、肉用牛肥育経営等緊急支援事業による滞留している廃用牛に対しての出荷遅延支援金の交付、牛生体放射線測定器の貸付などを実施し、経営安定への支援に努めた。

重点的に推進した事項

- 1 認定農業者等主業型経営体を対象とした経営診断・経営技術指導及び最新技術情報の提供・研修会の開催。
- 2 家畜防疫等家畜衛生対策の推進。
- 3 東北ブロック生乳検査業務の円滑な推進。
- 4 家畜登録（乳用牛・豚）事業、家畜人工授精用精液流通調整事業、家畜自衛防疫事業、生乳検査事業、肉用牛肥育経営安定特別対策事業等の実施に伴う各種情報等の効率的活用。
- 5 本県肉用牛の改良増殖及びいわて肉用牛躍進運動等生産振興に寄与。

I 独自事業

企画調整事業

1) 「岩手の畜産」発行事業 (1,328千円)

畜産に関する情報、経営管理技術・家畜衛生等の情報資料を掲載した「岩手の畜産」を発行し、畜産関係指導機関・団体及び主な経営診断農家等に配布した。

(隔月奇数月 1,700部発行)

2) 職員技術研修事業 (808千円)

関係機関・団体が行う先進的な研修会等に本会職員を派遣し、知識・技術の向上を図った。

研修会、講習会…10回・15人

3) 畜産技術指導促進事業 (406千円)

地域研修会や会議等へ参加し、一般畜産指導を行った。

会議…26回・26人、研修会…1回・1人、指導…9回・9人

4) 北海道・東北畜産協会職員研修事業 (127千円)

北海道・東北ブロック畜産協会職員研修に参加し、畜産に関する知識・技術の習得並びに諸情報の交換を行った。

開催場所…福島県郡山市熱海町・大槻町、開催日…9月20日(木)~21日(金)

参加者…8名

5) 養豚動向調査事業 (11千円)

需要に見合った豚肉生産の推進、施策の立案に資するため、養豚生産者を対象に飼養戸数・頭数調査(平成24年8月1日現在)を実施した。

飼養戸数…151戸、子取り用雌豚頭数…43,099頭

6) 岩手競馬支援特別対策事業 (326千円)

本県の畜産振興を図るうえで、地方競馬全国協会の畜産振興補助事業は重要かつ不可欠であるが、地方競馬は、全国的に低調で畜産振興補助事業の更なる縮小が懸念されることから、地方公営競馬を支援するため、盛岡競馬場・水沢競馬場において、次の事業を実施した。

(1) 冠レースへの会長賞授与…2回

オクトーバーカップ競走(10月6日盛岡競馬場)

ノベンバーカップ競走(11月17日水沢競馬場)

(2) 岩手競馬ファン感謝サービスの実施…1回

11月17日水沢競馬場で畜産加工品を無料配布(600個)

(3) 畜産物等の消費宣伝

岩手競馬ファン感謝サービスに合わせて、畜産品の展示販売を実施。

Ⅱ 補助事業

1 農林水産省補助事業

1) 死亡牛緊急検査処理円滑化推進事業 (2,473千円－預かり補助金54,128千円)

死亡牛の適正な処理並びに円滑なBSE検査を実施するため、死亡牛の収集・輸送及び化製処理に要した費用に対して助成した。

(1) 地方事業推進・・・死亡牛整理票の配布

(2) 支払対象農家数、頭数・・・1,676戸、5,492頭

2) 家畜改良推進事業〔生涯生産性向上対策〕(預かり補助金2,120千円)

生涯生産性等の評価に必要な乳用牛の体型データ等を収集し、酪農家が目指す経営方針に適した牛群の整備を推進した。

体型データ等の収集及び指導に要する経費への補助

体型等のデータ収集頭数・・・848頭

2 岩手県補助事業

1) 家畜共進会開催事業 (2,503千円－うち県1,250千円)

畜産振興の基礎となる家畜の改良増殖を推進し、併せて畜産農家相互の研鑽と改良意欲の高揚を図るため、県下一円を対象とした畜種別の第56回岩手県畜産共進会を開催した。

なお、黒毛和種の部は、第10回全国和牛能力共進会岩手県出品牛の選抜会を兼ねて開催した。

	開催日	出品頭数	開催場所
黒毛和種の部	平成24年8月29日	49頭	JA全農いわて中央家畜市場
日本短角種の部	平成24年8月30日	35頭	同上
ホルスタイン種の部	平成24年9月1日	77頭	くずまき高原牧場体験交流センター
馬の部	平成24年9月2日	15頭	馬っこパーク・いわて
肉牛の部	平成24年11月3日	115頭	(株)岩手畜産流通センター

2) 肉用牛肥育経営等緊急支援事業 (10,152千円)

福島第一原子力発電所事故に起因し、酪農家及び肉用牛繁殖農家において、廃用牛の出荷が滞っていることから、出荷遅延支援金を交付し、経営の安定を支援した。

(1) 出荷遅延支援金交付実績

① 酪農・肉用牛繁殖

ア. 廃用牛……………事業対象者18人、事業対象牛60頭、金額8,400千円

(2) 事業推進

調査指導を行い、事業の円滑な推進を図った。

調査指導回数・・・24回

3) 日本短角種肥育経営安定特別対策事業（岩手県・盛岡市・久慈市・二戸市・岩泉町・新岩手農協・岩手中央農協－1,000千円）

日本短角種肥育経営の安定を図るため、日本短角種肥育経営の収益性が悪化した時に肥育牛補填金を交付するための肥育安定基金の造成と補填金交付に係る事務を円滑に実施した。

- (1) 肥育基金造成及び補填金交付事務
- (2) 調査指導・・・農協等の業務委託先の巡回指導
- (3) 普及啓発

3 地方競馬全国協会補助事業

1) 馬の改良増殖奨励事業（1,251千円）

農用馬の生産及び優良種雄馬の維持活用を図るため、飼養者または管理者に対して奨励金を交付した。

(1) 優良種雄馬繁殖奨励〔種付け奨励〕

家畜改良増殖法に基づく種畜証明書の交付を受け、年間の種付け頭数が、純粋種にあつては1頭以上、純粋種以外にあつては10頭以上の農用雌馬に種付けした種雄馬飼養管理者に対し奨励金を交付した。

種雄馬・・・8頭、種付け頭数・・・52頭、奨励金交付・・・465,000円

(2) 子馬生産奨励〔生産奨励〕

農用馬の生産拡大を積極的に誘導して生産意欲の高揚を図るため、農用種雌馬を飼養し、子馬を生産して日本馬事協会の種馬登録規程に基づく血統登録を受けた飼養者に対して奨励金を交付した。

奨励金交付頭数・・・34頭、奨励金交付額・・・780,000円

2) 地域畜産支援指導等体制強化事業（13,853千円）

国・県の畜産振興施策を補完し、地域における総合的な見地から地域畜産振興を推進するため、技術指導に要する経費の補助を受け、畜産の担い手育成や畜産に対する理解増進等以下の取組を行った。

(1) 畜産の担い手育成・確保・増強に向けた体制強化

① 畜産生産基盤育成強化

ア. 対象者：個別支援・・・述べ191件、地域支援・・・地域セミナー11ヶ所×1回

イ. 内 容：個別支援・・・県内の畜産農家（乳用牛、肉用牛、養豚、肉用鶏経営）の畜産コンサルタントを実施した。

地域支援・・・県内の畜産農家を対象とした地域セミナーを11回開催した。

② 担い手女性研修

ア. 対象者：女性の集い・・・60名

イ. 内 容：本県の肉用牛生産意欲を高めていくため、肉用牛に携わる女性の集いを開催した。

③ 乳質改善推進

ア. 対象者：県下一円の酪農経営体

イ. 内 容：岩手県乳質改善協議会並びにJA、農業改良普及センター等と連携し、乳質改善のデータ収集を行うとともに、改善を必要とする農家の搾乳機器の診断を実施した。

ミルクシステム診断428基、バルククーラー点検382基

④ 乳用牛群検定推進

ア. 対象者：県下一円の牛群検定加入酪農経営体

イ. 内 容：乳用牛の検定成績を県内加入組合にフィードバックし、繁殖成績及び能力の向上のための指導を行った。

⑤ 養豚動向調査

ア. 対象者：県内養豚農家

イ. 内 容：需要に見合った豚肉生産の推進、施策の立案に資するため、養豚生産者を対象に、飼養戸数・頭数調査を実施した。

飼養戸数・・・151戸、子取り用雌豚頭数・・・43,099頭

⑥ 畜産技術指導促進

ア. 対象者：畜産農家及び関係機関・団体

イ. 内 容：地域研修会や会議等へ参加し、一般畜産技術指導を行った。

会議・・・26回・26人、研修会・・・1回・1人、指導・・・9回・9人

⑦ 家畜生産農場清浄化促進

ア. 対象者：県内一円の牛飼養農家及び発生農場

イ. 内 容：岩手県ヨーネ病発生農場清浄化促進対策協議会のもと、牛ヨーネ病発生農場の同居牛の淘汰等に対し助成し、牛ヨーネ病の発生予防、まん延防止、早期清浄化を推進した。

(2) 地域畜産に対する理解増進等畜産関連公益活動の体制強化

① 岩手県畜産共進会の開催

ア. 対象者：県下一円の一般消費者、生産者

イ. 内 容：県内一円を対象に共進会（乳牛、黒毛、短角、馬、肉牛）を開催し、家畜改良増殖の促進と畜産農家相互の技術研鑽を図るとともに、畜産に対する理解増進に努めた。

② 広域広報活動（「岩手の畜産」の発行）

ア. 対象者：経営診断農家、畜産関係機関・団体

イ. 内 容：畜産に関する情報、経営管理技術、家畜衛生等の情報資料を掲載し、隔月奇数月の年6回（各1,700部）作成・配布した。

③ 畜産協会のPR

ア. 対象者：JA、市町村、来客、業務用他

イ. 内 容：「社団法人岩手県畜産協会の概要」を500部作成、協会の取組を広く紹介し畜産に対する理解増進を図った。

(3) 地域畜産の活性化推進体制の強化

地域家畜共進会の開催支援

ア. 対象者：市町村、JA、同志会等

イ. 内 容：各地域における家畜共進会の開催を支援し、畜産の活性化を図った。

(4) 馬事・畜産の普及啓発の推進体制の強化

① 地域畜産普及啓発事業

ア. 対象者：競馬ファン 600名（畜産物加工品の配布対象人数）

イ. 内 容：平成24年10月6日、11月17日の2日間において、会長賞授与。

11月17日に水沢競馬場で畜産フェアを開催し、先着入場者に対し畜産加工品の無料配布を行い、競馬ファンの集客に努めるとともに馬事・畜産の普及啓発、畜産物の消費宣伝を行った。

② 主要馬産地におけるイベント開催支援

ア. 対象者：全国流鏝馬競技大会参加者、東北馬力大会参加者

イ. 内 容：本県は馬産地であり、県内の主産地で開催される馬力大会や流鏝馬大会を支援し、馬事文化の普及啓発を推進した。

4 農畜産業振興機構補助事業

1) 家畜防疫互助基金造成等支援事業（3,786千円）

口蹄疫、豚コレラ等の海外悪性伝染病が発生した場合に備え、その影響を緩和し、経営の再建を支援する互助基金制度について、家畜飼養者への周知を図り、基金への加入を促進した。

(1) 地方推進会議・・・3回

(2) 加入戸数及び頭数

乳用牛 824戸、37,918頭（戸数加入率66.5%、頭数加入率82.8%）

肉用牛 3,888戸、74,567頭（戸数加入率60.1%、頭数加入率70.3%）

豚 57戸、334,480頭（戸数加入率40.1%、頭数加入率69.1%）

（注）飼養戸数、頭数は農林水産省畜産統計（平成24年2月1日）

2) 肉用牛経営安定対策補完事業〔地域における肉用牛生産基盤強化等対策〕

（4,756千円－預かり補助金50,157千円）

肉用牛生産基盤強化対策、地域の特色ある肉用牛振興対策等肉用牛に係る経営安定対策を補完する取組に対し、奨励金及び補助金を交付した。

(1) 肉用牛生産基盤強化対策

① 中核的担い手育成増頭推進

計画的に繁殖雌牛を増頭した中核的担い手に対し、増頭実績に応じ奨励金を交付した。

実施団体数・・・7農協、交付頭数・・・17頭

② 肉用牛ヘルパー推進

肉用牛生産の労働負担の軽減を図るため、傷病時等の肉用牛ヘルパー作業を実施した肉用牛ヘルパー利用組合に対しヘルパー活動に要した経費を補助した。

実施団体数・・・6組合

③ 肉用牛振興推進指導

①から②の事業を円滑に実施するため、事業の調査指導等を実施した。

肉用牛ヘルパーの実態調査・・・14組合

調査指導回数・・・17回

(2) 地域の特色のある肉用牛振興対策

① 地方特定品種等の振興

生産者集団等が、地方特定品種の維持強化を図るため実施した次の取組に対して補助した。

ア. 低コスト肉用牛生産促進：実施団体数・・・18集団

イ. 計画出荷対策：実施団体数・・・1農協、交付頭数・・・637頭

② 山振地域における肉用牛振興

生産者集団等が、山振地域における肉用牛振興のために実施した次の取組に対して補助した。

ア. 優良子牛適正出荷推進：実施団体数・・・3農協、交付頭数・・・2,705頭

③ 地域の特色ある肉用牛生産推進指導

①から②の事業を円滑に実施するため、事業の調査指導等を実施した。

調査指導回数…13回

3) 肉用牛肥育経営安定特別対策事業〔肥育経営安定推進〕(11,984千円)

肉用牛肥育経営の安定を図るため、肉用牛肥育経営の収益性が悪化した時に肥育牛補填金を交付するための肉用牛肥育経営安定特別基金(肥育安定基金)の造成と補填金交付に係る事務を円滑に実施した。

- (1) 県内推進会議の開催…1回
- (2) 事務委託先等への現地調査・指導…33回
- (3) 肥育牛個体登録から補填金交付に係る事務
- (4) 事務委託先への個体識別技術料の支払…12ヶ所、2,357千円

4) 酪農経営安定対策補完事業〔牛群検定システム高度化支援事業〕

(13千円-預かり補助金14,404千円)

乳中尿素窒素データ、ボディコンディションスコア(BCS)等のデータの収集及び指導を実施し、飼養管理技術の向上と受胎率低下等の繁殖障害・疾病の改善を図った。

- (1) 生乳品質改善計画の策定並びに純タンパク含量に関するデータ収集及び酪農家への指導に要した経費への補助…14検定組合
- (2) 飼養管理改善計画の策定並びにBCS等のデータ収集及び酪農家への指導に要した経費への補助…14検定組合

5 中央畜産会補助事業

1) 育成馬予防接種推進事業 (185千円)

馬伝染性疾病の予防接種を計画的に実施し、発生予防に努めた。

- (1) 対象疾病・頭数…日本脳炎35頭、三種混合49頭、馬インフルエンザ59頭
- (2) 対象地域…遠野市
- (3) 対象馬…軽種馬、乗用馬、農用馬 延べ143頭

2) 馬飼養衛生管理特別対策事業 (234千円)

馬の飼養衛生に関する調査及び普及啓発事業を実施した。

- (1) 地域馬飼養衛生管理体制整備委員会の開催…1回
- (2) 馬飼養衛生管理技術講習会の開催…1回(31名)
- (3) 地域馬獣医療実態調査…104戸

3) 衛生体制強化基金事業 (109千円)

家畜伝染性疾病の発生・流行防止対策を効果的に推進するため自衛防疫推進会議を

開催するとともに、啓発資料を作成・配布した。

(1) 推進会議・・・5回

(2) アカバネ病予防接種推進パンフレット作成・配布・・・11,000部

4) 畜産特別資金等推進指導事業 (3,541千円)

畜産経営指導機関、関係金融機関、生産者団体などで構成する畜産特別資金岩手県支援推進協議会を開催し、統一的な指導方針の策定を行い、関係機関、団体協調のもと畜産特別資金借受者に対する経営再建指導を行った。

(1) 岩手県支援推進協議会の開催・・・委員会1回、幹事・指導班員会議3回

(2) 融資機関への指導助言・・・26ヶ所

(3) 借受希望者への改善計画作成指導、借受者への改善計画達成指導・・・64回

(4) 経営改善のための指導資料作成・配布・・・4回

(5) 借受者の進捗状況・実績点検調査・・・2回（上期・下期）

(6) 借受者の経営改善状況調査・・・1回

(7) その他推進指導・・・全国会議3回、ブロック会議1回、農畜産業振興機構ヒアリング1回、地方審査会4回

6 畜産経営支援協議会補助事業

民間グループ被災地畜産農家救援活動事業〔被災地畜産振興に係る人的支援等事業のうち生産者団体支援〕 (4,441千円)

福島第一原子力発電所事故の発生以降に収集された高濃度の放射性セシウムを含む稲わらが給与された肉用牛から、食品衛生法上の暫定規制値を超える放射性セシウムが検出されたことに伴い、被災を受けた肉用牛農家に対し交付された肉用牛肥育経営緊急支援事業に係る緊急支援金等の返還業務を行った。

(1) 全国会議への出席・・・1回

(2) 交付された緊急支援金等の返還業務の実施

(3) 農協等への巡回指導・・・述べ28回、述べ43ヶ所

Ⅲ 受託事業

1 岩手県受託事業

1) 畜産生産基盤育成強化事業 (5,931千円)

経営感覚に優れた生産性の高い畜産経営を確立するため、経営支援指導を実施した。

(1) 畜産経営体支援指導研究会

① 委員会の開催・・・1回

② 畜産経営技術指導報告書作成

(2) 畜産経営技術の総合支援指導

① 個別支援指導…延べ191件

畜産経営体に対する個別指導により畜産経営技術の高度化を図った。

ア. 経営診断に基づく改善指導…24件

経営分析による問題点の把握とその改善のための指導を行った。

イ. 経営管理技術指導…49件

経営管理技術の高度化を図るため、経営分析手法を用いて損益計算書、貸借対照表等の財務諸表を作成するための巡回指導を行った。

ウ. 生産技術指導…57件

生産技術の高度化を図るためのワンポイント指導を行った。

エ. フォローアップ指導…61件

畜産経営体に対する各種の助言、指導内容の定着を図るため、定期的な巡回指導を行った。

② 地域支援指導…地域セミナーの開催 11回

経営技術の高度化及び畜産をめぐる諸情勢等をテーマとして、畜産経営体等を対象とした地域セミナーを開催した。

(3) 畜産経営関係情報のホームページによる提供

畜産経営に関する情報をデータベース化し、リアルタイムに情報提供を行った。

2) 乳用牛群検定情報分析センター機能向上事業 (552千円)

乳用牛群検定普及定着化事業で得られた情報データを集積及び分析し、情報提供・指導を実施した。(対象：14検定組合)

(1) 情報データを集積及び分析し、成績書として取りまとめ配布した。

(2) 各検定組合への巡回指導を実施した。(14検定組合×1回)

(3) 検定加入促進を図った。

2 中央畜産会受託事業

1) 明日への道標 地域畜産災害再生支援事業 (1,021千円)

東日本大震災の発生及びそれに伴う福島第一原子力発電所事故の発生が地域の畜産経営にもたらした被害・影響・発生時の緊急対応や、その後の課題及び現在の状況等について、畜産経営体や関係機関等を対象に調査を実施し、整理・取りまとめを行った。

調査事例数…22事例 (県1事例、総合農協16事例、関係団体5事例)

2) 褐毛和種生産費調査事業 (75千円)

肉用牛経営の発展に資するため、地方特定品種（褐毛和種）の生産費等生産実態を調査した。

- (1) 調査農家…褐毛和種繁殖経営 1戸
- (2) 調査対象期間…平成23年4月1日から平成24年3月31日までの1年間

3) 乳用種初生牛生産費調査事業 (255千円)

畜産振興施策の基礎資料に資するため、乳用種初生牛の生産費等生産実態を調査した。

- (1) 調査農家…酪農経営15戸
- (2) 調査対象期間…平成23年4月1日から平成24年3月31日までの1年間

4) 公庫資金活用推進事業〔農業経営サポート事業〕(100千円)

日本政策金融公庫資金を借受けした畜産経営体に対し、資金借受け後の事業計画・資金計画を作成支援するとともにフォロー指導を行った。

指導件数…1戸（養豚経営）

5) 畜産関係団体調整機能強化事業 (249千円)

盛岡競馬場において、岩手競馬ファン大感謝祭を開催、先着700名に畜産物加工品を配布し、岩手競馬を側面的に支援した。

6) 図書支援事業 (558千円)

中央畜産会が発行した月刊誌「畜産コンサルタント」及び畜産に関する書籍等を斡旋配布し、畜産の知識・技術の普及啓発を行った。

年間販売実績…月刊誌594冊、書籍7冊

3 畜産近代化リース協会受託事業

畜産近代化リース協会貸付事業指導等事業 (1,036千円)

畜産近代化リース協会が貸し付けした施設・機械の物件確認と管理状況の調査及び適正な利用方法について技術指導を実施した。

また、新たな貸付者の開拓のため、リース制度のPRに努めた。

- 1) 対象物件確認基数…79基
- 2) 対象農家数…70戸
- 3) 調査項目
 - (1) 貸付契約書の保管状況
 - (2) 対象機械の機種・製造番号等の確認
 - (3) 物件の契約状況

(4) 施設の保守管理状況

(5) 物件の稼働状況

4) 新規開拓のための事業推進

家畜市場、岩手県畜産共進会、その他畜産農家が集まる催事等でのPR活動
(述べ15回)

4 日本政策金融公庫受託事業

日本政策金融公庫資金（農林水産事業）活用推進事業（100千円）

公庫資金の活用を推進するため、畜産経営体への公庫資金の情報提供等を行った。
(1回)

5 家畜衛生対策推進協議会受託事業

軽種馬生産地馬鼻肺炎予防接種及び地域自主防疫活動強化緊急対策事業（478千円）

馬インフルエンザの発生を防止するため、乗用馬等（競走馬を除く）へのワクチン接種を支援した。また、地域自主防疫活動を強化するため、関係団体との推進会議を開催した。

(1) ワクチン接種頭数・・・92頭

(2) 推進会議……………1回

IV 負担金事業

1 肉用牛肥育経営安定特別対策事業〔生産者手数料〕（独自－14,245千円）

肉用牛肥育経営安定特別対策事業を遂行するために必要な経費の一部について、受益者である契約生産者から事務費負担金（実費相当額を限度）として生産者手数料を徴収し、事業を円滑に推進した。

1) 協会の推進事務費

2) 事務委託先の推進事務費

2 ミルクシステム診断事業（独自－6,639千円）

乳房炎の発生予防並びに乳質の向上のため、県内酪農家の搾乳機械の作動状況・保守点検・搾乳方法について診断指導を実施した。

1) 対象農協数・・・6農協

2) 診断戸数・・・ミルクシステム診断428戸、バルククーラー点検382戸

3) 実施基数・・・ミルクシステム診断428基、バルククーラー点検382基

平成24年度 家畜人工授精用精液流通調整事業 事業報告書

県内の大家畜飼養者に対し、本会が指定するサブセンターを通じて家畜人工授精用精液等を安定的に供給し、もって本県の家畜改良増殖の推進に寄与した。

なお、凍結分譲本数は、乳用牛は後継牛確保のための性選別精液の増等により伸びたが、肉用牛はF1用精液の減少等により前年度を下回った。

- 1 凍結精液分譲本数……115,601本（前年比 95.4%）
乳用牛……48,222本（前年比 105.1%） 肉用牛……67,379本（前年比 89.5%）
- 2 受精卵分譲本数……287本（前年比 104.7%）
乳用牛……55本（前年比 211.5%） 肉用牛……232本（前年比 93.5%）
- 3 液体窒素供給量……54,067kg（前年比 100.4%）
- 4 受胎調査報告等会議の開催…1回
 - 1) 出席者……20名（受胎調査員11名他）
 - 2) 受胎率（平成23年度授精分）……乳用牛47.0%、肉用牛63.3%
- 5 サブセンター家畜人工授精担当者県外研修
 - 1) 参加者……12名（人工授精担当者10名他）
 - 2) 研修先……長崎県佐世保市 第10回全国和牛能力共進会
- 6 サブセンター家畜人工授精担当者会議の開催……1回
参加者……32名（人工授精担当者22名、関係機関・団体等10名）
- 7 家畜改良に関する情報の提供……86回
凍結精液等の供給業務において情報誌の配布や情報交換等を実施

平成24年度 肉用牛肥育経営安定特別対策事業 事業報告書

肉用牛肥育経営は、素牛の導入から肥育牛の出荷まで一定期間を要し、かつ、生産費に占める素畜費の割合が大きいことから、素畜価格と枝肉価格の水準によっては大幅な収益性の悪化が懸念される。

このため、契約生産者の積立金、独立行政法人農畜産業振興機構からの補助金をもって肉用牛肥育経営安定特別基金（肥育安定基金）を造成し、肥育牛1頭当たりの平均粗収益が平均生産費を下回った場合に、契約肥育牛を当該月に販売した者に対し、肥育牛補填金を交付し、肉用牛肥育経営の安定を図った。

1 契約生産者数……466戸

2 事務委託先数……12ヶ所

[事務委託先詳細：順不同]

全国農業協同組合連合会岩手県本部	岩手江刺農業協同組合
(一社)岩手県配合飼料価格安定基金協会	岩手南農業協同組合
新岩手農業協同組合	いわい東農業協同組合
花巻農業協同組合	大船渡市農業協同組合
岩手中央農業協同組合	岩手中央酪農業協同組合
岩手ふるさと農業協同組合	岩手県畜産農業協同組合

3 基金の造成及び補填金交付実績

1) 肥育安定基金造成実績（平成24年2月～平成25年1月）

生産者積立金及び農畜産業振興機構補助金の肥育安定基金造成実績は以下のとおり。

(単位：頭、円)

品種区分	区分	頭数	単価 (生産者積立金)	肥育安定基金造成負担区分		合計
				生産者積立金	機構補助金	
肉専用種	H 23年度	1,929	13,000	25,077,000	75,231,000	100,308,000
	H 24年度	11,089	13,000	144,157,000	432,471,000	576,628,000
	小計	13,018	-	169,234,000	507,702,000	676,936,000
交雑種	H 23年度	974	25,000	24,350,000	73,050,000	97,400,000
	H 24年度	4,763	30,000	142,890,000	428,670,000	571,560,000
	小計	5,737	-	167,240,000	501,720,000	668,960,000
乳用種	H 23年度	479	18,000	8,622,000	25,866,000	34,488,000
	H 24年度	1,769	30,000	53,070,000	159,210,000	212,280,000
	小計	2,248	-	61,692,000	185,076,000	246,768,000
合計	H 23年度	3,382	-	58,049,000	174,147,000	232,196,000
	H 24年度	17,621	-	340,117,000	1,020,351,000	1,360,468,000
	合計	21,003	-	398,166,000	1,194,498,000	1,592,664,000

2) 補填金交付実績 (平成24年2月～平成25年1月販売分)

肥育安定基金から月毎に補填金を交付した実績は以下のとおり。

区分	品種区分	免除の有無	交付対象		肥育牛補填金	
			人数 (人)	頭数 (頭)	単価 (円)	交付額 (円)
平成23年度 2月期 (平成24年2月)	肉専用種	通常	236	806	67,000	54,002,000
		免除	10	25	50,200	1,255,000
		小計	240	831		55,257,000
	交雑種	15	501	150,800	75,550,800	
	乳用種	7	208	124,100	25,812,800	
	合計		262	1,540		156,620,600
平成23年度 3月期 (平成24年3月)	肉専用種	通常	237	1,007	39,900	40,179,300
		免除	2	4	29,900	119,600
		小計	237	1,011		40,298,900
	交雑種	13	535	152,300	81,480,500	
	乳用種	8	213	124,500	26,518,500	
	合計		258	1,759		148,297,900
平成24年度 4月期 (平成24年4月)	肉専用種	通常	242	961	7,600	7,303,600
		免除	2	2	5,700	11,400
		小計	242	963		7,315,000
	交雑種	16	461	91,900	42,365,900	
	乳用種	9	244	108,300	26,425,200	
	合計		267	1,668		76,106,100
平成24年度 5月期 (平成24年5月)	肉専用種	通常	223	888	25,000	22,200,000
		免除	0	0	18,700	0
		小計	223	888		22,200,000
	交雑種	14	501	89,500	44,839,500	
	乳用種	9	253	84,700	21,429,100	
	合計		246	1,642		88,468,600
平成24年度 6月期 (平成24年6月)	肉専用種	通常	236	974	30,900	30,096,600
		免除	0	0	23,100	0
		小計	236	974		30,096,600
	交雑種	12	465	114,100	53,056,500	
	乳用種	10	294	76,400	22,461,600	
	合計		258	1,733		105,614,700
平成24年度 7月期 (平成24年7月)	肉専用種	通常	264	1,175	25,400	29,845,000
		免除	0	0	19,000	0
		小計	264	1,175		29,845,000
	交雑種	14	460	115,500	53,130,000	
	乳用種	9	251	75,000	18,825,000	
	合計		287	1,886		101,800,000
平成24年度 8月期 (平成24年8月)	肉専用種	通常	234	888	82,400	73,171,200
		免除	0	0	61,800	0
		小計	234	888		73,171,200
	交雑種	16	472	122,000	57,584,000	
	乳用種	7	128	79,600	10,188,800	
	合計		257	1,488		140,944,000
平成24年度 9月期 (平成24年9月)	肉専用種	通常	244	946	46,300	43,799,800
		免除	0	0	34,700	0
		小計	244	946		43,799,800
	交雑種	15	463	111,000	51,393,000	
	乳用種	7	131	82,200	10,768,200	
	合計		266	1,540		105,961,000
平成24年度 10月期 (平成24年10月)	肉専用種	通常	247	1,112	50,100	55,711,200
		免除	0	0	37,500	0
		小計	247	1,112		55,711,200
	交雑種	13	448	113,000	50,624,000	
	乳用種	10	333	77,800	25,907,400	
	合計		270	1,893		132,242,600
平成24年度 11月期 (平成24年11月)	肉専用種	通常	275	1,281	8,400	10,760,400
		免除	1	1	6,300	6,300
		小計	276	1,282		10,766,700
	交雑種	15	503	91,200	45,873,600	
	乳用種	10	286	70,900	20,277,400	
	合計		301	2,071		76,917,700
平成24年度 12月期 (平成24年12月)	肉専用種	通常	0	0	0	0
		免除	0	0	0	0
		小計	0	0		0
	交雑種	14	567	52,100	29,540,700	
	乳用種	6	252	68,000	17,136,000	
	合計		20	819		46,676,700
平成24年度 1月期 (平成25年1月)	肉専用種	通常	230	998	29,600	29,540,800
		免除	1	1	22,200	22,200
		小計	230	999		29,563,000
	交雑種	13	590	87,600	51,684,000	
	乳用種	5	240	63,500	15,240,000	
	合計		248	1,829		96,487,000
合計	肉専用種	通常	2,668	11,036		396,609,900
		免除	16	33		1,414,500
		小計	2,673	11,069		398,024,400
	交雑種	170	5,966		637,122,500	
	乳用種	97	2,833		240,990,000	
	合計		2,940	19,868		1,276,136,900

平成24年度 日本短角種肥育経営安定特別対策事業 事業報告書

岩手県、市町及び農業協同組合からの補助金等をもって日本短角種肥育経営安定特別基金を造成し、日本短角種肥育経営の収益性が悪化したときに補填金を交付し、もって経営の安定と日本短角種牛肉の安定供給を図った。

- 1 対象生産者数…26戸
- 2 対象肥育牛…754頭
- 3 基金の造成及び補填金交付実績
 - 1) 基金造成実績

区 分	戸数 (人)	頭数 (頭)	単価 (円)	補助金等 (円)
岩手県	26	754	20,000	15,080,000
盛岡市	3	25	10,000	250,000
久慈市	15	379	10,000	3,790,000
二戸市	1	76	10,000	760,000
岩泉町	7	274	10,000	2,740,000
新岩手農業協同組合	25	750	10,000	7,500,000
岩手中央農業協同組合	1	4	10,000	40,000
合 計	26	754	-	30,160,000

※合計欄の戸数、頭数は実数

- 2) 補填金交付実績 (平成24年1月～平成25年1月販売分)

肥育安定基金から四半期毎 (月) に補填金を交付した実績は以下のとおり。

区 分	市町村区分	交付対象		補填金額	
		人数 (人)	頭数 ① (頭)	補填金単価 ② (円/頭)	補填金交付額 ③ = (①×②) (円)
平成24年 4月分	盛岡市	3	3	40,000	120,000
	久慈市	11	18	40,000	720,000
	二戸市	1	4	40,000	160,000
	岩泉町	5	22	40,000	880,000
	合 計	20	47	-	1,880,000
平成24年 5月分	盛岡市	1	2	25,000	50,000
	久慈市	7	12	25,000	300,000
	二戸市	1	6	25,000	150,000
	岩泉町	6	25	25,000	625,000
	合 計	15	45	-	1,125,000

平成24年 6月分	盛岡市	2	4	19,100	76,400
	久慈市	13	15	19,100	286,500
	二戸市	1	6	19,100	114,600
	岩泉町	7	24	19,100	458,400
	合 計	23	49	-	935,900
平成24年 7月分	盛岡市	2	2	24,600	49,200
	久慈市	12	35	24,600	861,000
	二戸市	1	6	24,600	147,600
	岩泉町	6	22	24,600	541,200
	合 計	21	65	-	1,599,000
平成24年 9月分	盛岡市	1	3	3,700	11,100
	久慈市	15	62	3,700	229,400
	二戸市	1	6	3,700	22,200
	岩泉町	6	25	3,700	92,500
	合 計	23	96	-	355,200
平成24年 11月分	盛岡市	1	1	40,000	40,000
	久慈市	13	36	40,000	1,440,000
	二戸市	1	7	40,000	280,000
	岩泉町	5	29	40,000	1,160,000
	合 計	20	73	-	2,920,000
平成24年 12月分	盛岡市	1	2	40,000	80,000
	久慈市	14	55	40,000	2,200,000
	二戸市	1	9	40,000	360,000
	岩泉町	6	25	40,000	1,000,000
	合 計	22	91	-	3,640,000
平成25年 1月分	盛岡市	2	5	20,400	102,000
	久慈市	8	18	20,400	367,200
	二戸市	1	6	20,400	122,400
	岩泉町	5	22	20,400	448,800
	合 計	16	51	-	1,040,400
総 合 計	盛岡市	13	22	-	528,700
	久慈市	93	251	-	6,404,100
	二戸市	8	50	-	1,356,800
	岩泉町	46	194	-	5,205,900
	合 計	160	517	-	13,495,500

※平成23年度第4四半期、平成24年8月及び10月分の補填金交付は無し

平成24年度 家畜登録事業 事業報告書

家畜改良による能力向上を図り生産基盤確保と所得向上のため、関係機関・団体の協力のもと、乳用牛並びに豚の血統登録・登記等家畜登録事業を実施した。

なお、登録取扱件数は、乳用牛は自家保留等により伸びたが、豚は日本養豚協会登録制度の改正に伴い移動件数が前年度を大きく下回った。

1 家畜登録取扱件数

1) 乳用牛……8,158件（前年比 117.9%）

- (1) 血統登録……5,090件（前年比 113.8%）
- (2) 牛群審査……1,168件（前年比 116.8%）
- (3) 検定成績…… 624件（前年比 138.1%）
- (4) 移動他……1,276件（前年比 128.8%）

2) 豚……3,395件（前年比70.7%）

- (1) 子豚登記……2,119件（前年比 90.6%）
- (2) 移動他……591件（前年比 35.3%）
- (3) 種豚登録……675件（前年比 102.7%）
- (4) 指定農場……10件（前年比 71.4%）

〈明 細〉 遺伝資源保存指定種豚場 4 農場、黒豚生産農場 2 農場
海外合成豚原々種豚場 2 農場、系統維持施設証明指定 2 農場

2 研修会及び会議出席

1) 東北地区登録委員研修会（ホルスタイン種）

- (1) 開催月日……平成24年7月24日～25日
- (2) 開催場所……宮城県松島町
- (3) 出席者……本県受講者5名

2) 東日本地区種豚登録講習会（豚）

- (1) 開催月日……平成24年10月1日～2日
- (2) 開催場所……群馬県渋川市
- (3) 出席者……本県受講者5名

3) 冬期登録事務担当者会議（ホルスタイン種）

- (1) 開催月日……平成25年1月31日
- (2) 開催場所……東京都中野区
- (3) 出席者……本県受講者1名（本会）

平成24年度 家畜自衛防疫事業 事業報告書

家畜伝染性疾病の発生予防並びにまん延防止を図るため、次の事業を実施した。

1 ヨーネ病防疫推進対策（1,959千円）

飼養者が自主的に行うヨーネ病同居牛等の淘汰の円滑な推進を図り、ヨーネ病まん延防止、早期清浄化を促進した。

対象戸数、頭数…4戸、9頭

2 オーエスキー病清浄化推進対策（5,288千円）

清浄種豚の流通促進を図るため、種豚生産農場の出荷予定豚の抗体検査を実施した。

対象戸数、頭数…7戸、4,603頭

3 発生・流行防止対策（213,456千円）

牛及び豚の特定疾病の流行防止のため、組織的な予防接種の推進を図った。

- 1) アカバネ病予防接種……………49,237頭（前年比 89.8%）
- 2) 牛五種混合（生）予防接種……………28,529頭（前年比 93.1%）
- 3) 牛五種混合（不活化）予防接種……………3,419頭（前年比103.3%）
- 4) 牛六種混合（生・不活化）予防接種……………1,102頭（前年比 40.6%）
- 5) 牛ヘモフィルス予防接種……………23,864頭（前年比 89.9%）
- 6) 豚丹毒（生）予防接種……………159,682頭（前年比 83.8%）
- 7) 豚丹毒（不活化）予防接種……………65,388頭（前年比 75.3%）

4 家畜伝染性疾病緊急防疫対策事業（1,136千円）

対象疾病の発生農場における清浄化対策に要する経費の一部を助成した。

- 1) 補助件数…20件
- 2) 対象疾病…ヨーネ病、サルモネラ症、ウイルス性下痢・粘膜病

平成24年度 生乳検査事業 事業報告書

東北生乳販売農業協同組合連合会及び東北地区の農業協同組合、牛群検定組合等から委託又は依頼された生乳について検査を実施した。

なお、東日本大震災による影響からの回復等により、検査対象乳量は前年度を上回った。

- 1 取引試料乳検査（検査対象乳量 588,181,324kg、前年比 104.1%）
 - 1) 配分検査試料乳（成分及び体細胞数検査） 72,645件（前年比 96.7%）
配分検査試料乳（細菌数検査） 72,534件（前年比 96.7%）
 - 2) 集乳及び配送試料乳検査 50,195件（前年比106.9%）

- 2 牛群検定試料乳検査 595,505件（前年比 106.0%）

- 3 依頼試料乳検査
 - 1) 成分及び体細胞数検査 28,728件（前年比 96.6%）
 - 2) 細菌数検査 13,723件（前年比 83.0%）

4 外部精度管理

（財）日本乳業技術協会が生乳検査施設を対象に実施する技能試験を受け、脂肪率、無脂乳固形分率、体細胞数の精度の維持と検査技術の向上を図った。（4回）

※検査項目

- ・成分検査・・・脂肪率、乳蛋白質率、乳糖率、無脂乳固形分率、全固形分率、乳中尿素態窒素。ただし、集乳及び配送試料乳については、脂肪率、無脂乳固形分率の2項目。
- ・体細胞数検査
- ・細菌数検査

平成24年度 優良繁殖雌牛更新促進事業 事業報告書

平成23年度で事業終了（平成24年3月31日をもって基金を閉鎖）した、当該事業の基金残額を農林水産省に返還した。